トライアル

令和元年　５月１３日（月）
四季が丘小学校　研究推進便り

４／２６（金）に，学力フォローアップ校事業連絡協議会が行われました。

１年目の成果と課題をもとに２年目の取組の充実に向けた講話や実践交流・組織づくりについての協議等の中から共通認識を図っておきたいことをまとめました。全員で一層の研究推進の充実を図っていきたいと思います。よろしくお願いします。

・支援対象児童のつまずきの要因を丁寧に分析すること

→どの段階でつまずいているのかによって，具体的な手立ては違います。

例えば，文章を書くことに課題がある児童は，
①文章を書くことに抵抗があるのか
②書くことが思い浮かばないのか
③書きたいことはあるが書き始めることができにくいのか
④ノートや作文用紙のマスの使い方がわからないのか　等のつまずきが考えられます。

つまずきの要因を把握し，確かな手立てについての具体を考えていきます。

・個別の支援計画の活用を図ること

つまずきの要因分析をふまえ，要因の仮説を立て，考えた具体的な手立てが有効であったか，有効でなかったのであれば，再度，手立てを考え，記録をしていきます。

① 学習指導案につまずきの要因分析を明記していきます。
　→ 学習指導案の様式を一新します！
　　指導の手立てとして「声をかける」「継続する」など具体のないものは記述しません。

② 個別の指導計画を充実させます。
　→ 日々の児童の様子（つぶやき・記述等）や変容を見取り，蓄積していきます！
　　その積み重ねがつまずきの要因分析につながります。
　　担任・研究推進教員・FU 教員・通級担任・支援員等が児童のつぶやき・変容を付箋に書き，貼りためていきます。職員室に FU コーナーを設置します。

③ フォローアップ対象児童について協議する場を設定します。

④ 授業研究は，昨年度同様，国語科と算数科で行います。

「できるだけ早い段階で学習のつまずきに取り組み，一生を支える学習の力を身に付ける」

会の終わりに立田主任指導主事様がお話しされた言葉の中の一つです。つまずきのある子どもを宝ととらえて，本事業に思い切って取り組んでいってほしいと続けて述べられました。

今年度の担当である義務教育指導課の玉木指導主事様からも，自信をもって進めていってほしいという有難いお言葉をいただきました。

本校では，組織的な研究体制のもと，日々の確かな取組により支援対象児童の学習意欲の向上が見られ，一定の成果を上げることができたことを再確認しました。

新たなメンバーで今年度も「気になるあの子の主体的な学びの実現」に向けて取り組んでいきましょう。「トライアル」は試行という意味です。